

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

施策番号	S16	－	施策名	在宅医療・介護連携事業の推進		
担当部課	福祉部長寿課		関係部課			
基本情報	総合計画	基本方針	3	人がいきいきとつながるまち		
		分野別項目	8	高齢者の安心な暮らしと生きがいを支える		
		施策の進め方	－			
	まちづくり行程表	フラッグ	F2	「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～		
		政策分類	5	障がい者でも要介護でも認知症でも大丈夫		
	その他(関係法令、要綱等)	介護保険法				
施策開始の背景、経緯等	地域において疾病や要介護状態にある高齢者数は増加し続けており、医療ニーズと介護ニーズを併せ持つ市民を地域でケアしていくために、双方の連携が必要となっている。					
施策の目的等	施策の内容	(どのような施策なのか) 一人ひとりが住み慣れた地域で健やかに暮らしていく仕組み(地域包括ケアシステム)の構築のために医療・介護職種の多職種による協働・連携の体制を整える				
	施策の対象	(誰、何を対象にしているか) 医療・介護従事者及び行政機関				
	施策の意図	(対象をどのような状態にしたいか) 対象者間の協働・連携を深め、地域包括ケアシステムの構築を進める。				
	施策に係る主なコスト	① 電子連絡帳システム賃貸借	2,592 千円	②	千円	
目標・成果推移	施策に係る取組み	28年度	29年度	30年度	中期(おおよそ3年後)	長期(おおよそ5年後)
	A	目標	目標	目標	目標	目標
		顔のみえる関係づくりの強化	専門部会を設置し、専門職自身が取組を企画実施。	専門部会の活性化により、新たな参加者や多職種の参加を得る。	専門職による主体的な地域包括ケアシステムの検討	在宅医療・介護のみでなく、福祉との連携も図り、世代を問わず対応できる仕組みをつくっていく
	多職種連携	実績	実績			
		多職種が参加することができる交流会を年4回実施	研修、交流会、入退院調整、事例検討の部会を設置して連携事業を行った。			
	B	目標	目標	目標	目標	目標
実績		実績				
環境変化	他市町での取組状況や施策を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 支援が必要な人を支える医療・介護・福祉の専門職が、情報を共有するためのツール「電子@連絡帳」は、近隣市町でも導入されており、平成28年度から広域化を図っている。				
改善状況	前年度からの改善点	(何をどのような状態に改善したのか) 様々な専門部会を設置し、専門職が積極的に参加し企画実施できる仕組み(例えば研修部会では必要と考える内容を発案したり、事例検討部会では多職種に疑問点を尋ねる等)を整えた。				
評価	目標達成状況	(目標・成果推移に対する達成状況や進捗状況など) 各種専門部会を設置し、多数の参加者を得た。医療介護連携に前向きな専門職や事業所にとっては、活動しやすい環境整備が進んでいると感じる。				
	課題	(目標達成状況を踏まえ、課題を整理) 電子@連絡帳の活用について研修等を実施しているが、利用件数はあまり伸びていない。会議等の参加メンバーも含め、連携が一部の専門職や事業所に固定されており、裾野が広がっていない。				
今後	今後の方向性、改善点	(施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) これまで多様な専門職同士の顔の見える関係や知識・制度の共有の場づくりを進めてきたが、医療と介護はそもそもの成り立ち、根幹となる制度や考え方に違いがあり、一自治体による連携の推進には限界を感じる部分がある。制度の枠を超えて連携を進めるためには、専門職の主体的な係わりや制度設計の抜本的な見直しが必要である。				